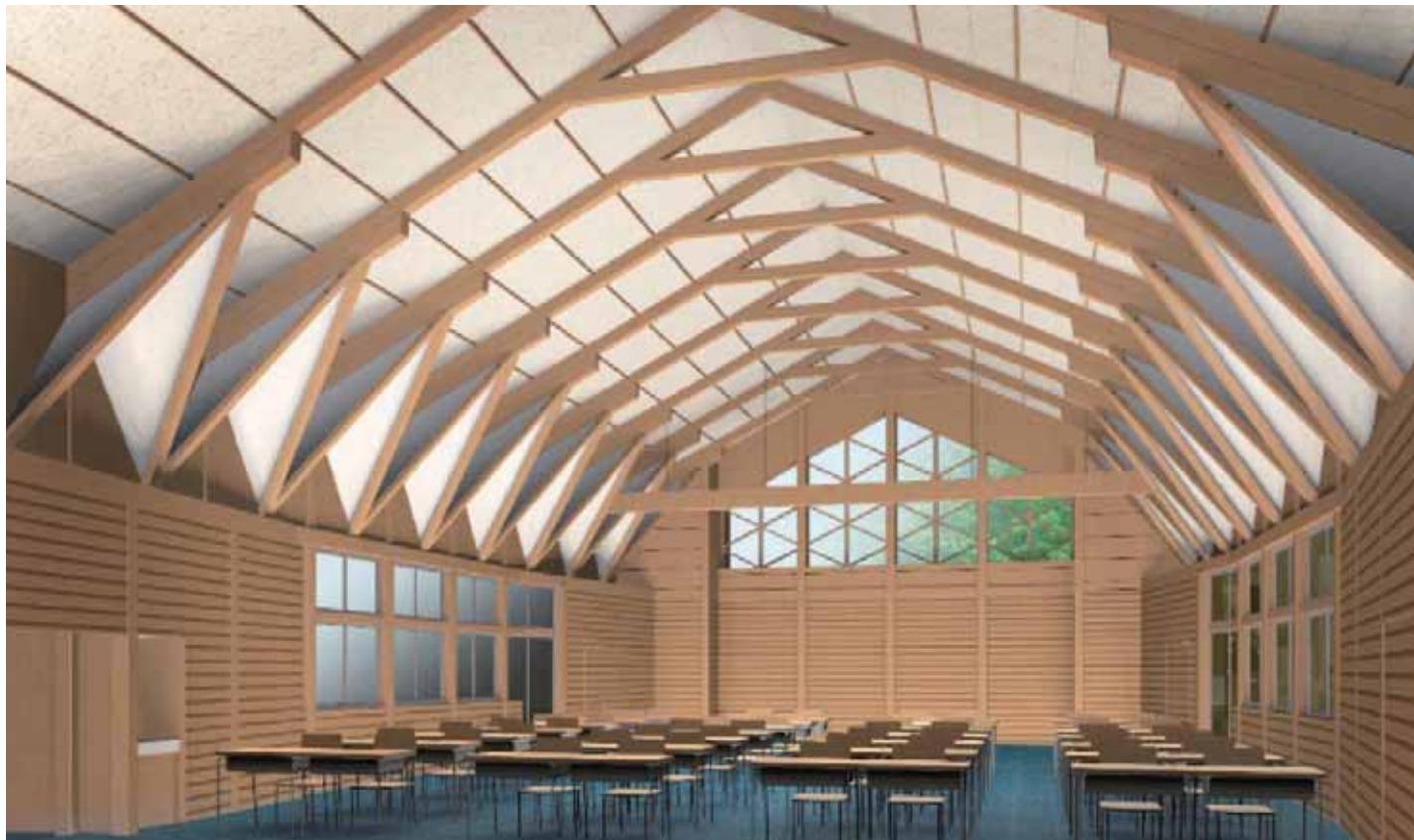




金龜会報

平成24年3月1日発行
発行所
滋賀県立彦根東高等学校
金 龜 会
滋賀県彦根市金龜町4-7
TEL & FAX0749-23-0888

印刷所
株 ヒ コ ハ ン
彦根市城町1丁目4-12



木造校舎棟（特別教室棟）の音楽教室 完成予想図 多目的に利用し、120名を収容できる。



プラスバンド部室（旧彦中寄宿舎食堂）



体育館裏の女子部室と新聞部部室



ハンドボールコートから校舎をのぞむ



近年、全く使われていないプール



さつ
い
あ
ご

金龜會會長
細江正人

東日本大震災により、多くの方の尊い命が失われましたことに深く哀悼の意を表し、心からご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様とそのご家族の皆様に心よりお見舞い申し上げます。

ても、昨年一年間、東日本大震災、近畿地方の台風による災害といった自然災害に加え、世界経済を巡る環境では、欧州金融危機、米国経済停滞、とりわけ、円高の急速な進行など、正に、多難な一年だったことと存じます。

城天守及び各櫓群等（国宝及び重要文化財）城郭内部（国指定特別史跡）と大名庭園（玄宮樂々園・松原下屋敷、国指定名勝）、清涼寺の井伊家墓所（他二ヶ所と共に国指定史跡）に特化して世界遺産登録を実現性の高いものにする案を提示されました。一方、滋賀県では一昨年から県立高校の再編計画が示されて論議されています。彦根東高校の定時制についても統廃合の案がありますが、議決により全体的な計画についてさらには一年以上意見調整をすることとなりました。

年次別に順次耐震改修工事を進め
る母校の校舎本館棟は、中村善一郎
前会長の肝いりで、耐震改修に併せ

時全の世相を表す漢字は「絶」でした。歴史と伝統を誇る全国、全世界の金龜会会員の英知と赤鬼魂を結集し、この国の復興に貢献することで、会員相互の「絆」をより強いものにできればと、思います。自然災害も少なく恵まれた地域にある母校の地から、近況をお知らせできることに感謝し、ご挨拶とさせていただくと共に、赤鬼魂を「絆」に、会の「発展」と「貢献」を決意したいと思ひます。ありがとうございました

ご
あ
い
さ
つ

滋賀県立彦根東高等学校長
寺田利雄

学校は、伝統ある「赤鬼魂」を制は全学年8クラスとなりました。男女比は56：44です。

き継ぎ、「文武両道」「自学自習」を校是に、未来をたくましく切りく知性と教養を備えた、人類・国家社会に貢献する心豊かな人物の育

を目指して、次の3つの基本方針
①生徒が志を高くもち、自分の夢
に向かって学ぶことのできる教育
制を充実する。

「確かに自己実現事業」の指定を受け、生徒たちに自発的な強い学びを醸成しようとする「東大ライズ授業イン彦根（各分野の東京大学の先生を招いての年5回の授業）や「英語コミュニケーション講座」（年4回の外部講師による講座とノイティティブの留学生との交流）を実施しております。12月17日の第4回「東大ライズ授業イン彦根」では、東京大学総合博物館の西秋良宏教授（東277

学校といたしましては、今後も組織としての教育力をアップさせ、全國に誇れる彦根東高校として、一步づつ高みを目指してまいりたいと考えております。

金龜会会員の皆様には、より一層のご指導ご鞭撻をお願い申し上げますとともに、皆様方のご健康とご活躍をお祈り申し上げまして挨拶といたします。

来年度新たに、本校が地域での科学教育の中核拠点として、地域活性化の源となるべく、地域の小学校、中学校、高等学校と連携したコアスクール事業へもチャレンジし、地域の科学教育向上に貢献したいと願っています。今年度、新しい取組として、県の

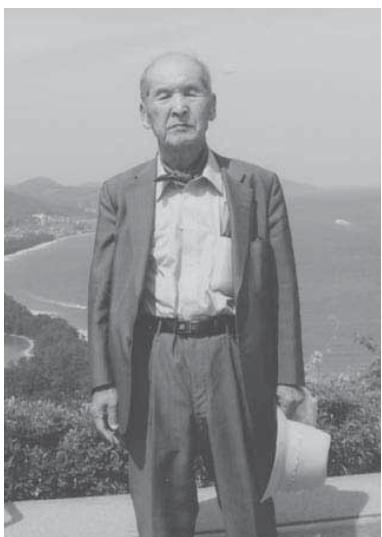
が行われ、後期工事は、平成25年度に第一本館、平成26年度には第2本館の耐震改修工事が計画されており、平成27年3月に完成予定です。さて、今年度も全日制315名、定時制18名の「赤鬼魂」が根付いた若者が巣立つていきます。

②生徒が「学問」と共に「人としての在り方（人との関わり合い）」を学ぶよう導く。
③自主・自律・創造性を重んじ、生徒一人ひとりの成長を促す教育を提供する。

卒)に講演いたしました。

恩師だより

東高の思い出



瀧谷 慈照

先生は大正13年に愛知郡にお生まれになりました。八日市中学を卒業されたのち、北海道大学工学部に学ばれ、終戦後数学科の教職に就かれ、滋賀県立短期大学附属高等学校（現彦根工業高校）の夜間部から愛知高校そして昭和34年に本校へ赴任されました。昭和52年までの18年間を全日制で勤務され、52年から57年までは定時制の教頭をされ、昭和57年から59年にかけて長浜北高校の校長を務められました。退職後は、多賀町木曽の照蓮寺の住職を務められ、趣味として書を楽しんでおられるそうです。

東高生との出会い
私は、昭和三十四年四月から本校に厄介になりました。当時木造校舎で、廊下などデコボコで、とくに階段などは、木の節目の所が盛り上がっていました。廊下などは、木の節目の所が盛り上がっていました。A君は授業に顔を出さなくなっていました。気になつて呼び出して「出席時数が不足したら、単位認定が出ます」と言つた。A君は卒業し進学して行きました。私が機会はいくらでもあつたので、何故もう一度会つて、心を入れて話しあつたのかと、今も悔やまれます。内心忸怩たるものを持ち続けています。



先取りして、勝手に喋ることが再三再四、邪魔だなーと感じ、それ廊下に出てもらつたのですが、それ以来、A君は授業に顔を出さなくなっていました。気になつて呼び出して「出席時数が不足したら、単位認定が出来ます」と言つた。

弓道部の顧問として

東高にきて、二・三年後のことですか、新学年度の弓道部顧問に名をつらねました。四月に入つて間もなく「先生、弓道部長の吉田です。よろしくご指導くださいますよう、お手線を入れて「誰か後を続けてくれ」と見回したとき、左前方で、静かに手がすつと上がりました。名前を確かめ、「私が板書するから言つてくれ」、サラサラ、サラサラ、サラツと進んで、「うーん、そうか」そんな声が聞こえていました。出来るのですね。十八年間の教鞭生活が夢のでしようか、A君が私の説明の先々

来なくなる」と注意したことがあります。A君は卒業し進学して行きました。私が機会はいくらでもあつたので、何故もう一度会つて、心を入れて話しあつたのかと、今も悔やまれます。内心忸怩たるものを持ち続けています。

昨年の同窓会

この九月に、学年同窓会に出席しました。「先生、弓道部長の吉田です。よろしくご指導くださいますよう、お願い申し上げます」この言葉にびっくりしました。この吉田君のこの言葉に引っぱられて、毎日弓道場（市の弓道場）に通つては、新入部員と一緒に、弓の手ほどきを受けるのが、また、楽しい私の日課の一つになりました。（私は、少々、少々どころか、お天気やのおつちよこ、ちよいの……ですね）弓との出会いは私の人生に、すばらしい花を添えて下さったのでした。うれしかつたことは、近畿大会に足をのばしたり、早朝三

東高の文化祭を参観して

今年の六月二十日のこと、「ひこの文化プラザ」で東高文化祭を参観致しました。二年生の部で、「ワラン節」を基調とする、クラス毎の集団演舞でした。「金木犀」というシャレた演題もありました。何れ劣らぬ迫真的動き、美と団結を追求し、感に打られたことが、ございました。

「フレーフレー カワバタ。」「フレーフレー ひがし」「フレーフレー ガンバレ ガンバレ 東高」「フレーフレー ひがし」「フレーフレー ガンバレ ガンバレ 東高」



定時制の思い出

定時制に五年間勤務しました。休み時間になると、若い生徒が職員室にやつて来て、それが、准看の人ばかりとも限りませんが、喋っています。それは賑やかなもの。男子も負けず劣らず、一寸背の高いのが何人かとやつて来て、ワイワイ、ガヤガヤ、私の前まで来てあれこれと、全日制とはまったく違った雰囲気です。仕事のこと、職場のこと、職場の悩み、上司、友達のこと。ベルが鳴つて、私に「クラブ活動、また、たのみます」声をかけて出て行く生徒もありました。職員室はやつと静けさをとりもどします。クラブ活動はしてあります。定時制生徒諸君の訪問で、市内の色々な工場や□製作所などを訪ねたことが再三ありました。今もその建物などを見上げている時もあるのです。楽しい5年間に感謝しています。

平成22年度 金龜会一般会計収入支出決算報告書

(収入の部)

(単位：円)

予算科目	予算額	収入済額	差引額	備考
入会金	1,064,000	1,058,000	△6,000	在校生
会費	3,400,000	2,410,520	△989,480	会費 終身 220人・年 265人
繰入金	0	1,000,000	1,000,000	基金会計繰入金
雑収入	28,263	21,313	△6,950	名簿代、預金利息等
繰越金	732,737	732,737	0	前年度繰越金
合計	5,225,000	5,222,570	2,430	

平成23年度 金龜会一般会計収入支出状況(12月末)

(収入の部)

(単位：円)

予算科目	予算額	収入済額	差引額	備考
入会金	1,036,000	1,013,000	△23,000	在校生
会費	3,300,000	1,060,640	△2,239,360	会費 終身 97人・年 114人
雑収入	23,430	26,554	3,124	名簿代、宛名シール、預金利息
繰越金	287,570	287,570	0	前年度繰越金
合計	4,647,000	2,387,764	△2,259,236	

(支出の部)

予算科目	予算額	支出済額	差引額	備考
事務費	170,000	70,495	99,505	消耗品等
通信費	150,000	134,582	15,418	電話代、郵送料
総会費	275,000	196,394	78,606	総会諸経費
会議費	170,000	166,458	3,542	常任理事会
旅費	120,000	165,160	△45,160	支部総会
涉外費	800,000	836,015	△36,015	支部総会祝金
事業費	3,250,000	3,030,896	219,104	会報印刷・発送、卒業記念品等
激励費	250,000	335,000	△85,000	全国大会出場激励金
繰出金	0	0	0	
予備費	40,000	0	40,000	
合計	5,225,000	4,935,000	290,000	

(支出の部)

予算科目	予算額	支出済額	差引額	備考
事務費	100,000	104,480	△4,480	消耗品等
通信費	140,000	118,073	21,927	電話代、郵送料
総会費	217,000	232,290	△15,290	総会諸経費
会議費	170,000	85,300	84,700	常任理事会
旅費	150,000	107,100	42,900	支部総会
涉外費	450,000	481,500	△31,500	支部総会祝金
事業費	3,130,000	270,759	2,859,241	公孫樹印刷、印刷機リース代
激励費	250,000	135,000	115,000	全国大会出場激励金
繰出金	0	0	0	
予備費	40,000	0	40,000	
合計	4,647,000	1,534,502	3,112,498	

収入総額 5,222,570円－支出総額 4,935,000円＝残額 287,570円(平成23年度へ繰越)

収入総額 2,387,764円－支出総額 1,534,502円＝残額 853,262円

平成22年度 金龜会基金会计収入支出決算報告書

(収入の部)

(単位：円)

予算科目	予算額	収入済額	差引額	備考
繰越金	43,538,978	43,538,978	0	前年度繰越金
繰入金	0	0	0	
寄付金	1,000	3,000	2,000	山川秀二(東17)
雑収入	5,022	3,453	△1,569	預金利息
合計	43,545,000	43,545,431	431	

平成23年度 金龜会基金会计収入支出状況(12月末)

(収入の部)

(単位：円)

予算科目	予算額	収入済額	差引額	備考
繰越金	38,545,431	38,545,431	0	前年度繰越金
繰入金	0	0	0	
寄付金	1,000	0	△1,000	
還付金	3,000,000	0	△3,000,000	東高新聞縮刷版刊行経費貸付金
雑収入	3,569	82	△3,487	預金利息
合計	41,550,000	38,545,513	△3,004,487	

※東高第9回卒業同窓会より「電子黒板（タッチパネル一体型ディスプレイ）一式」(90万円相当)を御寄贈頂きました。

(支出の部)

予算科目	予算額	支出済額	差引額	備考
激励費	1,000,000	1,000,000	0	海外研修激励金
貸付金	3,000,000	3,000,000	0	東高新聞縮刷版刊行経費貸付金
繰出金	0	1,000,000	△1,000,000	一般会計繰出金
合計	4,000,000	5,000,000	△1,000,000	

(支出の部)

予算科目	予算額	支出済額	差引額	備考
激励費	1,000,000	1,000,000	0	SSH海外研修激励金
合計	1,000,000	1,000,000	0	

収入総額 43,545,431円－支出総額 5,000,000円＝残額 38,545,431円(平成23年度へ繰越)

収入総額 38,545,513円－支出総額 1,000,000円＝残額 37,545,513円

平成22年度会計監査報告書

平成22年度滋賀県立彦根東高等学校金龜会の一般会計及び基金会计について、各会計の決算書を基に関係諸帳簿、預金通帳及び収入支出証拠書類等の監査をしたところ、いずれも適正に処理されており、正確であったことを認めます。

平成23年5月11日

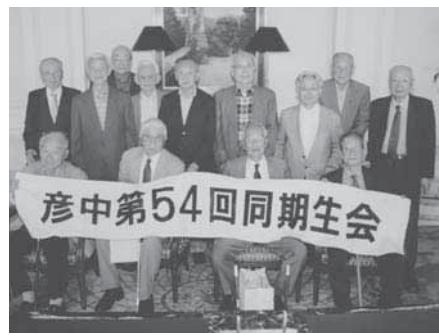
金龜会会計監査 大森修太郎印 川瀬勝彦印

寄稿の予約を是非お願いします。字数は14字×28行程度をお願いします。

彦中五十四期 母校内「御座所」他見学

内堀善一（中54）

内堀善一（中54）



るとは思えない程しつかりした外観を保っていた。

④資料室＝甲子園出場の旗、優勝杯、古い記念写真、刊行物などが所狭しと展示されていた。

午後は米原市磯の『工キシブ琵琶湖』で昼食会を催した。集

う学友十三名、例によつて例の如く和気藹々裡に旧交を温め、校歌、応援歌を齊唱して散会し



彦中58期同窓会

中川原正美（中58）

平成二十三年五月十九日彦根東高校正門付近に集合、吉田昌貢先生のご案内で構内に残る古い建物を見学した。

①彦中時代の鬼瓦＝この建物の屋根正面に「一中」と刻んだ鬼瓦が下を見下ろしている。

明治二十年現在地に校舎を新築した際、旧校舎を移転して寄宿舎として使つていた建物である。

②御座所＝大正六年（一九一七年）湖東平野を舞台に陸軍特別大演習が実施された際、彦根中学校に大本營が設置され、天皇の宿泊所として新築された建物である。当時最高の技術で施工されたものと思われる。

③現存最古の建物＝明治二十二年（一八八九年）滋賀県尋常中学校建築当時の門衛小屋である。百二十年以上経つてい

た。彦中時代の鬼瓦を金龜会を通じて日赤滋賀支部へ委託しました。豊かな経済大国の建設に微力を尽くしたという思いを込めて、震災復興の早いことを祈つて義援金十万元を金龜会を終始した懇親会は、来春も元気で会えることを祈つて散会しました。

例年なら、満開の桜花に映える彦根城は、花冷えの小雨がそぼ降る彼方に霞んでいました。

ぼした東日本大震災被害者に黙祷を捧げました。連日報道される被害地の映像は、私たちには65年前の瓦礫と化した戦災都市の光景と重なつて見えたのです。東京から大阪、神戸と全国各都市が空爆で次々と焼け野原になり、原爆は広島と長崎を一瞬にして人が住めないと言われる廢墟に化したのです。そして、満州では中立条約を一方的に破棄したソ連の大軍が津波のように押し寄せていました。

衣食住の全てが欠乏するみじめな時代を生き抜いて、平和で豊かな経済大国の建設に微力を尽くしたという思いを込めて、震災復興の早いことを祈つて義援金十万元を金龜会を終始した懇親会は、来春も元気で会えることを祈つて散会しました。

例年なら、満開の桜花に映える彦根城は、花冷えの小雨がそぼ降る彼方に霞んでいました。

二六会 卒業六十周年 記念同級会

小菅一彦（彦2）

の年月を経て傘寿の年ともなれば百二十人、クラスの五分の一が不帰の客となりました。これらの物故者の追悼法要を、親鸞聖人七百五十回忌を迎える西本願寺龍虎殿で同級生の導師の元に執り行い、その後で同寺の聞法会館にて同級会を開催しました。

欠席の返事の中には脳梗塞などの病気療養中で介護保険の世話になつてている方や、癌手術後療養中の方なども多数あり五体の同級生が集い楽しい一日を過ごしました。これまで毎年欠かさず続けてきた同級会も世話を担当され、昭和二十六年に金龜会の歴史で最多の六百十人が開会を前に、空前の被害を及

しました。金龜会報で我々よりも年上の旧制彦根中学世代の大先輩たちが元気に同窓会を開いておられる記事を読み、この年齢になると生きる目的がなく老齢化が進行しがちですが、毎年元気にしてお互い頑張ろうと誓い別れました。

いつまで続けるかが話題になりました。金龜会報で我々よりも年上の旧制彦根中学世代の大先輩たちが元気に同窓会を開いておられる記事を読み、この年齢になると生きる目的がなく老齢化が進行しがちですが、毎年元気にしてお互い頑張ろうと誓い別れました。

いつものことではあるが、中善君の呼び掛けで、今年も早くから実行委員会を組織し、十八人が何度も集まつた。

前回の集いは、二年前の平成二十一年だったが、卒業五十五周年を記念してのことだつた。今回は喜寿を大義名分とするもので、いよいよ年齢に目が向いて来たのかとも言えそうだが、十月二日にいつものホテルで開催した。

参加者数も前回と同じで元気の集まりだつた。一杯いただきながら談笑し出すと、なかなか話が尽きず、何と昼前に始めているのに、夕方になつてしまわないかと心配するほどだつた。

中善君の挨拶は、とりわけ力

がこもつていて、議員生活中に

も無かつたかと思わせるほどに、母校の置かれた位置と将来展望をパアフルに語つてくれた。ほ



東高校二回卒業 「喜寿を祝う」同窓の集い キャッスルに百五名参集

川嶋順次郎（東2）

とばしる愛校心には皆が心打たれた。ただ、「集い」を行なう毎に、拝顔できる恩師の先生が減り、今回は石原省吾先生一人になってしまった。しかし先生は、昔のままで、はつらつとささいに見えたかった遠来の友も多く、懐かしさに皆の顔は崩れっぱなしでした。

さあ次は傘寿だぞと、早くも三年後に思いをはせて校歌を大合唱し、来た時よりも数倍の若さ気どりになつて皆は別れました。



三亀会

花房房子(東3)



学年会だより

現彦根東高校（普通科）となつた昭和二十七年四月に入学した我々は、平成十七年に卒後五年となり、これ迄五年毎に行つてきました同期会を二年毎に地元、関東、関西の順で行うことを決め、今年は一巡して彦根での開催となつた。四月六・七日湖国の桜は蕾がやや硬かつたが暖かな日和に恵まれ、六日十六時より料亭「やす井」にて総会及び懇親会を開催。集合と同時に野村宗一氏により記念撮影。司会の北村一成氏の開会宣言から始まり先ず、恩師・会員及び東日本大震災犠牲の物故者を追悼し黙祷を捧げた。舞台上の女性五人のリードで校歌斉唱後、幹事長北河泰氏の挨拶、事務局より中村正三氏の諸報告、次回開催日開催のゴルフ担当の寺村新悦氏・観光担当の野村宗一氏からの連絡事項等で総会を終え、続いて前会世話人代表高田春男氏の乾杯の音頭で懇親会へと移つた。椅子・テーブル式会席料理、フリードリンクは七十才半ばの会員には大変好評であった。二年毎の出合いであるが、時を忘れ語らいは盛り上がつた。世話人塚本恵三氏のリードにより久々に応援歌四番まで声高らかに歌い上げ、堀江信夫氏の三本締めで次会での再会を約して閉会、二次会へと席を移動した。翌七日は希望により、バス二台、湖北に戦国史の跡と国宝十一面觀音を訪ねる”観光組と、彦根力量トリーでのゴルフ組に分かれ終日楽しんだ。今年の湖北はN HK大河ドラマ”江ノ姫たちの

関西31会
第5回懇親会
市橋悟(東4)

戦国”浅井三姉妹のふるさととして博覧会も開かれ大変な賑わいであった。今回は直前の東日本大震災で残念ながら関東方面の数名の会員は止むなく欠席となつたが、力ナダからの帰国会員もあり、一二一名母校の地に集い、二年後関東での出合いを楽しみに別れを惜しんだ。尚、今年一月、母校は全国高校新聞日本一となり、記念発行された統・縮刷版を会場入口で新聞部員が販売した。又、三亀会よりの祝金を後日学校長に届けた。東日本大震災への義援金は、参加者を代表して北河・中村両氏が彦根市役所へ持参した。

去る9月28日ヒルトン大阪にて、関西31会第5回懇親会（東4回卒）を開催しました。東亀会副会長・原幸男君、金龜会副会長・寺倉幸夫君、金龜会会長・海金龜会会長・寺倉幸夫君、金龜会副会長・原幸男君、等応援に駆けつけてくれ、また31会会員もあり、一二一名母校の地に集い、二年後関東での出合いを楽しみに別れを惜しんだ。尚、今年一月、母校は全国高校新聞日本一となり、記念発行された統・縮刷版を会場入口で新聞部員が販売した。又、三亀会よりの祝金を後日学校長に届けた。東日本大震災への義援金は、参加者を代表して北河・中村両氏が彦根市役所へ持参しました。

参加申込50名、体調不良等キャンセル4名、参加者46名と皆元気な姿を見せてくださいました。

「彦八会」
初めての一泊旅行
安藤恒雄(東8)東9回卒「36会」
卒業50周年記念同窓会
佐竹正夫(東9)

今から50年前の昭和36年に彦根高校を卒業した私たちは、50年の節目を記念して、平成23年10月6日（木）正午から米原市のエクシブ琵琶湖において「卒業50周年記念同窓会」を開催しました。

この同窓会については、前年7月10日に彦根市内在住の同窓生有志12人が集まり準備が始まりました。その中で話題となりましたのは、私たちの先輩が50周年記念同窓会の開催と併せ平成13年から毎年母校へ相当額のご寄付をされていることでした。その対応については、いろいろ意見をいただきましたが、母校が希望される学校備品を寄付する方向で進めることとなりました。

この後2か月に1回のペースで打ち合わせや調整を行い、準備を進めると共に、平成23年3月には同窓会の開催案内と母校への寄付の依頼状を発送しました。こうした対応のもと開催当日を迎えるましたが、懐かしい面々が続々と集まり、開会前には、夏川世話人代表が頼まれた生バンドが奏でる東高校歌や応援歌が流れ、会場に華やいだ雰囲気をお借りして東日本大震災の犠牲の方々のご冥福と、被災地を演出してもらいました。

当日は、KBS京都のアナウンサーだった寺村英夫君の司会で開会し、まず同窓の物故者が

同窓会をもたれる場合には寄稿の予約を是非お願いします。

進路指導課

母校だより

修学旅行

受験は団体戦とよくいわれるようになりました。今年度はセンター試験も、本校のほとんどが生徒が受験し、その九割以上の生徒が全教科（九〇〇点）を受験しました。

昨年度の入試では、京都大学の合格者が減りました。本校は生徒が志望するどこの大学であつても合格させることができる進学校としての使命を負っていますので大変残念な結果でした。必ずしも受験生の学力が低下しているとは感じていなかつただけに受験の怖さを痛感いたしました。



2日目・3日目のコース別体験学習では八重山地方の大 自然に触れ、風土・文化の違いを実感することとなりました。午後に訪れた竹富島では石垣島とは違った雰囲気を楽しんだようでした。また、コース別体験学習はいくつかのコースから各自の好みに合わせた選択制であつたこともあり、各自の思いが含まれ充実度は極めて高かつたと思いま す。

最終日は、修学旅行とし

総合教育講座

● 総合教育講座

● 東大授業ライブ
in 彦根

本年度は、「確かな自己実現支援事業」の一環として、「東大授業ライブ in 彦根」を実施しました。

東京大学の5人の先生をお招きして講演会を8月・9月・11月・12月・2月に、ひこね燐ばれすや滋賀大経済学部の講義室をお借りして実施しました。毎回150名以上の本校生徒と近辺高校の生徒、中学生、保護者社会人などが参加しました。

講演の講師とテーマは次のとおりです。なお、4回目の西秋良宏先生は東27回（昭和54年卒



西秋 良宏 先生
「歴史に学ぶ意味：中近東の
古学遺跡から」
⑤ 言語情報科学専攻
斎藤 兆史 先生
「英語達人術」

〔進路としての科学研究と、植物の生き方から学んだこと〕
③ 地域文化研究専攻
佐藤 安信 先生

業) の同窓生です。

A black and white photograph of a lecture hall. A man in a suit stands at a podium on the left, facing a large audience seated at long tables. A large projection screen is visible above the tables.

部活動

平成 23 年度大学合格者数

() 内は平成23年3月卒の現役

国公立大学		滋賀県立大	15	(13)
北大	1	京都府立大	8	(8)
筑波大	2	(2) 大阪市立大	6	(6)
東京大	2	(2) 大阪府立大	7	(4)
東京工大	1	(1) 神戸市外大	1	(1)
横浜国立大	1	(1) 国公立大合計	181	(135)
富山大	1			
金沢大	13	(9)		
福井大	2	(2) 私立大学		
岐阜大	1	青山学院大	1	
静岡大	4	(3) 慶應大	8	(4)
名古屋大	5	(3) 上智大	2	(1)
名古屋工大	3	(2) 中央大	7	(3)
三重大	2	(1) 東京理大	4	(2)
滋賀大	31	(28) 立教大	2	(1)
滋賀医大	2	(1) 早稲田大	14	(7)
京都大	7	(2) 京都産業大	24	(20)
京都工芸繊維大	4	(3) 京都女子大	65	(63)
京都教育大	4	(4) 京都薬大	13	(8)
大阪大	13	(11) 同志社大	138	(93)
神戸大	15	(10) 同志社女子大	21	(21)
奈良女子大	3	(2) 佛教大	11	(9)
岡山大	2	立命館大	198	(126)
広島大	7	(7) 龍谷大	81	(57)
徳島大	1	(1) 関西大	55	(37)
鳥取大	1	(1) 関西学院大	36	(22)
香川大	1	私立大合計	836	(587)



近畿大会で優勝し、国体に出場した澤友哉君

○ 宮本 歩	ベスト 16
○ 宮本・常喜美咲	ベスト 16
○ 男子 芳野公大・大野大樹	ベスト 16
近畿大会出場	ベスト 16
女子団体 3位	ベスト 16
宮本 歩 4位	ベスト 16
宮本・常喜美咲	ベスト 8
近畿大会出場	宮本
日本卓球選手権出場	宮本

◆ハンドボール
【春季総体】
3位
近畿大会出場
◆秋季総体
準優勝
近畿大会出場
◆卓球女子
春季総体

◆弓道
全国選抜卓球大会出場
常喜

やり投げ 澤友哉
春日井貴英 2位
近畿大会出場 1位

◆剣道 近畿大会出場

[秋季高文祭]
○男子個人 中辻健太
近畿總文祭出場
3位

○男子 8位	【駿伝県大会】	〔秋季総体〕	国体出場	やり投げ	澤 友哉	1位
○女子 8位	【近畿高校ユース選手権大会】	〔近畿高校ユース選手権大会〕	やり投げ	澤 友哉	1位	1位
○男子 8位	【近畿高校ユース選手権大会】	〔近畿高校ユース選手権大会〕	やり投げ	澤 友哉	1位	1位
○女子 8位	【近畿高校ユース選手権大会】	〔近畿高校ユース選手権大会〕	やり投げ	澤 友哉	1位	1位

◆ 布施絢子・廣瀬彩那・山根稚裕・元村彩季
 ◆ 二井谷和平・出路和香子・近畿大会出場
 ◆ 篠曲・長賞・SSS生物・国体出場

- ◆ 演劇部 近畿総文祭出場 優秀賞
- 新聞部 全國総合文化祭新聞部門 優秀賞
- 最優秀賞
- 全国高校新聞コンクール 優秀賞
- 岐阜高等学校新聞教育研究会賞 最優秀賞・知事賞32年連続

100

定时告

高校中退の生徒の「学び直し」の場

国

体で競

枝中の

井谷看

(右)

写真は二

井谷君接

(共)

彦根東高校増改修に向けての報告

水原脩(東11)

本校においては、1960年2月に現在の第2本館(教室棟)が鉄筋コンクリート造3階建、12月には第1本館(管理・特別教室棟)が同じく鉄筋コンクリート造4階建で、それに付属して2階建の図書館棟等が陸屋根の形で建設された。正面ファサードは当時の最先端、シックな窓変タイルとアルミサッシュ一部スパンドレル水平窓とのコントラストで形成され、その外装は当時の新しい建築スタイルの象徴として、教育文化都市彦根に相応しい品格ある姿で竣工し、彦根東高は概ね完成に至るのである。その後、66年にブール、67年御座所移築が続き、78年には鉄骨造2階建銀杏会館(同窓会館)も計画され、その後、滋賀国体をからめて、80~81年にビルドアップ形式鉄骨ボックス柱を主構造に、彦根東高は斬新な金属パイプによる立体トラス天井の現体育館が完成する。その段階と並んで、鉄筋コンクリート造2階建の史料館が完成され、学び舎は建設の歴史と共に時を重ねる事になる。しかししながら、1995年1月早朝に起こった未曾有の阪神淡路大震災による貴重な体験は、全国において建物の耐力度を新たためて調査、検討する事が余儀なくされる。その流れを受けて、2006年~07年にかけて、校舎建物の耐震度調査が開始、その結果を得て、まず



木造校舎棟(特別教室棟)増築工事 完成予想図

本校においては、1960年2月に現在の第2本館(教室棟)が鉄筋コンクリート造3階建、12月には第1本館(管理・特別教室棟)が同じく鉄筋コンクリート造4階建で、それに付属して2階建の図書館棟等が陸屋根の形で建設された。正面ファサードは当時の最先端、シックな窓変タイルとアルミサッシュ一部スパンドレル水平窓とのコントラストで形成され、その外装は当時の新しい建築スタイルの象徴として、教育文化都市彦根に相応しい品格ある姿で竣工し、彦根東高は概ね完成に至るのである。その後、66年にブール、67年御座所移築が続き、78年には鉄骨造2階建銀杏会館(同窓会館)も計画され、その後、滋賀国体をからめて、80~81年にビルドアップ形式鉄骨ボックス柱を主構造に、彦根東高は斬新な金属パイプによる立体トラス天井の現体育館が完成する。その段階と並んで、鉄筋コンクリート造2階建の史料館が完成され、学び舎は建設の歴史と共に時を重ねる事になる。しかししながら、1995年1月早朝に起こった未曾有の阪神淡路大震災による貴重な体験は、全国において建物の耐力度を新たためて調査、検討する事が余儀なくされる。その流れを受けて、2006年~07年にかけて、校舎建物の耐震度調査が開始、その結果を得て、まず

第1に耐震補強計画を立案、又、経年による老朽箇所の改修改善、建築基準改正による法適合改修、

その影響により、足りなくなつた

教室の増設や、使用用途の変更工

事、そしてユニバーサル対策、E

Vの設置工事等が計画される。又、

災害対策の一環として緊急用受水

槽の増設を始め各種関連リニューアル工事もその工事範囲とされた。

アル工事もその工事範囲とされた。

又、生徒においては室内環境改

善も重要なテーマであり、各種設備

機器、IT機器の新設、それ以外

にシック症候群に対する健康対策

からCO₂温暖化対策や、緑化計

画等々多くの観点から検討された。

その結果、総額20億円余のコスト

が必要となる。2010年~11年

より12年初頭に設計し、新しいタイ

ルとアルミ連双窓のファサードを

もつ第1本館を中心第2本館、

各棟渡廊下、図書館、銀杏会館、

一部改修の旧体育館(武道館)、

自転車庫等順次改修される模様。

無論、外観は彦根の景観条例に基

づく規制をクリアしつつ、この国

宝彦根城内の敷地に相応しい意匠

の継承と統一を心掛けている事は

いうまでもない。

本館内部設備に関しては、電気・

水道はもとより近年の情報技術の

発展に伴い、校内情報網の確立や、

P.C利用の増大についても、対応

を可能となる様考えられている。

同時に緊急時においても、学校そ

のものがその地域の特別避難場所

として役割を担える事も配慮され

なければならない。総合的にみて

工事期間中、仮設建物の建設によ

て、さらに運動場敷地が狭まくな

り、生徒のカリキュラムに不自由

さが増えるかもしれないが、各工

事度に優先順位を付けて、柔軟か

つスピーディに対応する事が求め

られている。

そうして、この学校が受け継が

れてきた精神と記憶とを考慮し

つ、既存校舎の持つ併まいを大切

に、耐震性を有した安全で新たな

学び舎創りの一端に寄与できる様

努力したいと思っている。

のトラス梁や重ね梁などの露出化粧天井が採用され、一部を除き、内部床壁共ほぼ全て木質で意図されている。更に、正面玄関の意匠は唐破風の城門の扉をおもわせるイメージで創られている。上記の全体工事は、2012年当初から始まり、漸次仮設棟設営、解体工事等順をおつて進捗していく予定。

又、前述メインの第1、第2本館等改修計画においては、2011年~12年初頭に設計し、新しいタイ

平成二十四年度

金 龜 会 報

彦根・湖東・湖北支部総会

日時 平成二十四年 五月二十七日 (日)

彦根・湖東・湖北支部総会 13時15分

総会 14時 (受付12時45分)

記念講演会 15時

場所 彦根東高校会議室
講演 演題 「時代をよむ」
講師 ジャーナリスト 田原 総一朗 氏 (東1回)



17時より
懇親会

(彦根キャッスルホテル
0749-21-2001
会費 七千円(当日徴収)

ご出席の方は同封ハガキをご返送ください